

受 理	平成28年9月14日	請 願 第 3 号
件 名	待機児童解消のための保育士確保策具体化を求める請願	
請 願 者	吹田市内本町1丁目22番25号 吹田市公立保育園保護者会連絡会 会長 堂下 航	
請 願 の 要 旨	<p>私たちは公立保育園の保護者ほかでつくる連絡会であり、特定の思想信条におもねらない団体であります。</p> <p>今年2月以降、新聞及びテレビ等で吹田市の待機児童問題が連日のように報道されていましたが、4月1日付けでの待機児童数230人に対し、吹田市も早々に待機児童解消アクションプランを策定し、この10月から164人の定員増の計画も発表されており、その御尽力に対し敬意を表しております。</p> <p>しかしながら、現実問題として、その230人には入所辞退者や育休延長者の数はカウントされておらず、潜在的にはまだまだかなりの待機児童数が控えていると思います。</p> <p>市内の民間保育園においては弾力的な受入れの余地があるにもかかわらず、保育士不足のためになされていない現実もあるとお聞きしています。また、身近では産休明けの保育士のお子さんの受入れ先がないがゆえに保育現場に戻れない、若しくは年度末ぎりぎりに子供の預け入れが決まり、次年度の保育受入れ計画に支障を来しているとも聞いております。</p> <p>吹田市は新規職員に限り5年間の家賃補助等の施策を打ち出されていると思います。しかしながら、飽くまで他市並みの施策にすぎず、もう少し目新しい対策なりで保育士を集める手法が必要ではないでしょうか。</p> <p>そこで提案ですが、産休明けにしろ他市から吹田市に移られたにしろ、子育て中の保育士に限り、保育所入所ポイントの加算を是非お考え願いたいのです。仮に一番入所希望が多い1歳児に特化して考えてみると、施設としての箱がある前提では、国基準ではありますが、保育士一人につき6人の保育ができます。つまり一人の保育士の子供を確実に預かることができれば5人プラスで待機児童が解消されるということです。それ以外にもメリットはあります。資格を持っているにもかかわらず現場から離れている潜在的保育士の掘り起こしや、吹田ブランドに加えて保育が保障されているために他市から引っ越してくる保育士も増えると思います。つまり、結果的に吹田の魅力が、預ける側、預けられる側、双方にとってメリットがあると考えられるのです。</p>	

<p>請 願 の 要 旨</p>	<p>待機児童が解消するまでの時限的な措置でもいいとは思いますが、吹田がアンテナシティ的に先頭に立ってこのような問題に取り組むことによって、全国の自治体に波及することを願っております。</p> <p>是非とも、御検討頂きますよう、下記の事項を請願します。</p> <p style="text-align: center;">記</p> <p>子育て世代の保育士の子息が保育所に入所するに当たって、入所ポイントを加算する等で確実に現場復帰でき、待機児童解消の一翼を担えるようにしてください。</p>
<p>紹 介 議 員</p>	<p>玉井美樹子      馬場慶次郎      池渕佐知子      五十川有香      生野 秀昭</p>
<p>付 託</p>	<p>福祉環境委員会</p>